

編集後記

< * > 前号で本誌の国際的役割と編集方針について打診したところ、多くの建設的なご意見やご教示をいただきまして、心からお礼申し上げます。運営委員会でも和文、英文の混載が承認されましたので、外国人が理解しやすいように若干配慮して編集しました。例えば和文報文の場合に、第一ページに英文要約（のみ）をのせました。

< * > F I A の創始者として著名な3名の先生—Ruzicka、Hansen（デンマーク）；Stewart（アメリカ）—からのご寄稿で紙面を飾り、国際色豊かになったことを慶んでいます。F I A の歴史も10年を経て、第2世代を迎えた感があるが、何をなすべきか、話題の核にしていだければと思います。Analytica Chimica Acta、Vol. 180でもPersonal viewに関する特集が掲載されていますので、あわせてご参照下さい。

< * > 国際的役割をF I A 研究会がどのように推進すべきか、上野先生から具体的指針をいただき、< 巻頭言 > としました。しゅん巡せずに早期実行をとのご警告に賛同し、感謝いたしております。国際学会は日本以外にブラジル、東欧、中国への声も高まりつつあるので、できるだけ早く開催地と責任者を決め、多角的に誘致運動を開始すべきでしょう。

< * > 本誌の略記法として、J. Flow Inject. Anal. や J. F I A などが報告されていますが、Chemical Abstractsでは、J. Flow Injection Anal. をすすめています。

< * > 日本化学会や日本分析化学会の雑誌では、著者の所属に国名（Japan）を入れないのが一般的ですが、本誌ではとりあえずJapanを明示しました。

< * > 海外出張（7月—9月）のため、次号（12月発行予定）からの編集業務は再び事務局（九大工）へ移ります。投稿希望者は前もって事務局（電話092—641—1101、内線5623）へご連絡を。 （ 与座範政 ）